

古文書を読む会学習記録

作成日 平成25年5月24日

開催日	平成25年5月23 日	時 間	10:00～12:00
場 所	金沢公会堂3号室	出席人数	11 名
講 師	真田雅行氏	作成者	伊達一雄
テーマ	第二学習 富士大山道中雑記 附江之嶋鎌倉①		
概 要	<p>甲斐の国近郊(現在は山梨市)に住む六人連れが富士山と大山に登ったあと、江ノ島・鎌倉を巡って帰った旅行の道中記。作者は不明だが、文書に出てくる鎌倉八幡宮の記述から、書かれたのは天保9年(1838)ではないかと思われる。</p> <p>甲州(府中)～御坂峠～河口湖～吉田口～富士登山～須走～松田～大山登山～藤沢～江ノ島・鎌倉～藤沢～八王子～勝沼～帰村。出発から帰るまでの全行程は10日間、時には駕籠や船に乗ったりするが、この間富士山と大山に登るというハードスケジュールである。文中に参加者の年齢は全く書かれていないが、車に頼る現代人には想像も出来ないすごい健脚である。</p> <p>癖のある字で読みにくいだが、当時の旅の様子を簡潔に記しているのが興味深い。1回目は甲州の八幡陣屋を出発して黒駒宿を経て御坂峠を越える。川口の湖水(河口湖)は船に乗り、吉田口に泊まる。翌朝早く浅間神社に参拝して富士山に登るところまで(途中で1人が先に帰る)。個人的な感想は少ない日記だが、特に宿泊や食事など旅の費用が細かく記されているのが興味深い。</p> <p>例えば富士山八合目に泊まった時の記述は、泊料 宿銭四十八文、ふとん百文、酒肴合五十文など。強力(ごうりき:重い荷物を運んでくれる人)四百八十文賃銭也、登山無事相済に付、賃銭貳百文、絶頂所々賽銭三百文、など。富士山に登るのには色々お金がかかることが分る。また矢倉沢の番所では「箱根裏番所のよし、入候者不構、出候者は切手入用に有之」と書いている。これは“入鉄砲に出女”を厳しく取り締まったことで、特に出る者(女)は切手(通行証)が必要であった。</p>		
補助資料	富士大山道中ルート:旅の全行程を地図に示したもの。		
備 考			
次回予定	平成25年6月13日 10:00～12:00 於: 金沢公会堂3号室 柴村・斎田家文書 ⑥		